

アジア・太平洋研究センター主催，総合政策学部共催講演会

シリーズ講演会「アジア・太平洋研究センター開設 20 周年記念シリーズ
『変容する国際政治経済秩序のなかでのアジア太平洋地域を考える』」

日 時：2025 年 10 月 17 日（金）

場 所：南山大学 R 棟 4 階 R49 教室

演 題：サポーディングインダストリーがアジア・世界を動かす：金型産業の可能性と課題——中部地方の金型産業にも触れて

講 師：馬場 敏幸氏（法政大学経済学部教授）



今回の講演会ではサポーディングインダストリーを取り上げました。サポーディングインダストリーとは、例えば、自動車や電子機器の生産では、膨大な部品が必要となりますが、そのような部品や周辺の製品を生産する製造業を指し、裾野産業とも呼ばれます。製造業においてもグローバル化が進み、私たちの身の回りの製品やサービスもグローバルなサプライチェーンのなかで供給されています。実際、自動車産業や電気電子産業などにおいて、大企業・リーディング企業だけでなく、そうした企業に様々な部品や原料などを供給する中小企業もまたこのようなグローバル化のなかで再編されてきました。はたしてサポーディングインダストリーがどのようにこのグローバル化のなかで変化してきたのか、また大きな変動期にあるようにみえる政治経済秩序のなかでどのような方向に向かうのかというテーマはさらに重要となっていると考えられます。今回お招きした法政大学の馬場敏幸教授は、とくに金型産業の動向を中心に、日本やアジア各国など世界のサポーディングインダストリーの研究に取り組み、多数の研究を発表しておられます。今回の講演の概要は以下の通りです。

サポーティングインダストリー，なかでも重要な役割を果たす「金型」に着目すると，産業同士の結びつきが経済全体に与える影響や，日本の産業構造や裾野産業の重要性についてより深く理解することができる。金型産業は「マザーツール」として製造業の基盤を支え，大量生産や高い性能を可能にする不可欠な存在である。職人による加工と比較して圧倒的な効率性と精度を持ち，私たちの生活を豊かにしている。愛知県を中心とする中部地域を例にとると，自動車産業と連携した企業間の強固なネットワークが発展している。

また，昭和期と現代の産業を比較すると明らかなように，自動車の軽量化や燃費向上など技術革新が進むなかで，裾野産業は，単なる組み立て産業とは異なり，多様な部品や技術を支える基盤として，重要な役割を果たしてきた。開発途上国では，裾野産業の未熟さが経済成長停滞の要因となっていることもある。

このように金型の基礎的な役割や産業の意義を理解した上で，日本と海外，とくにアジア諸国や欧米のビジネスモデルや技術動向の違い，近年の3Dプリンター普及による技術的インパクトと協調の可能性，GVC（グローバルバリューチェーン）における日本金型産業のプレゼンスの変動などを検討すると，興味深いことが様々に存在することがわかる。たとえば，日本では，金型産業は成長率が高い一方，人材不足や企業数の減少といった課題も抱えている。また，3Dプリンターとの関係については実は代替ではなく補完的であり，用途に応じた使い分けが必要である。さらに，日本の強みは技術力だけでなく勤勉な国民性にもあると思われ，他国との差別化やブランド化も今後は重要であると考えられる。

ご講演を通して，金型産業，より広くはサポーティングインダストリーがモノづくりの基盤であることを豊富な具体的な例でお話くださり，金型がなければモノづくりができない，ということが本当によくわかったという感想がいくつも寄せられました。また，サポーティングインダストリーには人材の確保や育成，技術継承などについての課題がもちろんある一方で，デジタル化などの取り組みも進み，生き残っている企業の業績が良いなどについてのお話も興味深く，また，開発途上国で金型産業が十分に発展しない場合，その要因はなにかといった質問もよせられ，活発な議論がなされました。サポーティングインダストリーの重要性を再認識させるご講演で，社会を支えている産業や技術について，それらがアジア太平洋地域においてどのような状況にあるかを改めて問い直すものでした。

（文責：佐藤 創）